

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

\*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「…とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

\*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

□ 現代文 (50点)

問一 7点(各1点×7)

1 潜在      2 拡張      3 贈与      4 特異

5 世俗      6 放出      7 累積

問二 8点

(模範解答例)

A○4点

人間は資源の稀少さ以上に生産力があるため

B○4点

過剰をどう処理するかを問題 と考えている。(40字)

【A・Bに関して部分採点を行う】

A 人間は「生存に関わる以上に生産すること」「資源以上に生産力があること」が適切に表現されていれば4点を加える。

※「稀少さ」のみ、もしくは「生産力がある」のみの記載(に類する) 解答は不可。

B 傍線部が「問題」と書かれているため、解答は「どうくするか」や「論点はく」といった表現であることを前提に、「過剰がどのように処理されているか」という趣旨が適切に表現されていれば4点を加える。

※「過剰」「処理」「どうくするか/論点はく」の三つの成分がそろっていれば可。

設問に合わせて「くと考えている」に類する表現で結ばれていなければ1点減点。

問三 10点

(模範解答例)

A○2点

未開社会は、

B①○2点

B②○3点

C○3点

過剰な生産を経済成長に充てず、生存に必要なものとして、蕩尽を社会的行為として行い、  
それによって秩序が保たれる社会だということ。(70字)

【前提をふまえた上でA・B・Cに関して部分採点を行う】

前提 ここは宗教的な意味でないことが読み取れることから前提を「宗教的な意味」としている解答は、そもそも問いの条件を満たしていないことから解答は不可とする。

A 主語「未開社会は」が明示されていることで2点を加える。

B 「蕩尽」という言葉に触れていなくても「未開社会は過剰が社会的行為として消費される社会」という趣旨が適切に表現されていれば5点を加える。なお、「世俗的な権威」や「みせびらかし」については要求する解答の本質ではなく触れていてもかまわないが、「過剰の蕩尽」について触れることが重要である。Bは二つに分けて採点する。

① (未開社会は), 過剰な生産を経済成長には充てない, という内容2点を与える。

② (未開社会は), 過剰を消費する, という内容に3点を与える。

C 「秩序を保つ社会が正しい社会」「秩序が保たれて相応しい」等「Aによって秩序が保たれている社会」であることが適切に表現されていれば3点を加える。

問四 10点

(模範解答例)

A①○3点

A②○2点

経済が発展し、消費と投資では過剰が吸収できない現代の経済のプロセスの中で、

B○5点

大規模な破壊行為により過剰を処理することはできないということ。(68字)

【A・Bに関して部分採点を行う】

A 現代の経済プロセスの説明。二つに分けて説明する。

① 過剰処理の形として「消費」と「投資」という例示に3点。片方しかなければ1点。

② 「過剰を吸収できない」という内容に2点

B 「戦争やポトラッチのような」大規模な破壊行為で過剰を処理できない」という趣旨が適切に表現されていれば5点を加える。「処理できない」という方向でまとめる必要がある。

※ここで「ポトラッチ」や「戦争」といった具体的な事象に触れることの有無は問わない。(つまり、これら具体的な事象のみを書いているものは加点しない)

※「破壊活動」「過剰処理」の二つの成分がそろっていれば加点。

問五 15点

(模範解答例)

A〇3点

過剰を破壊で処理することは出来ない以上、

B〇4点

現在と将来への人間の欲望で処理するしかないが、

C〇4点

その基本の生存に関わる欲望は有限なため、

D〇4点

それ以外で現在と将来の蕩尽ができる新たな欲望を開拓するしかないということ。(100字)

【A・B・C・Dに関して部分採点を行う】

A 「過剰を破壊で処理すること」が不可能であるという前提の趣旨を適切に表現していれば3点を加える。

※ 「過剰を破壊で処理する」「不可能」「難しい」でも許容)の二成分がそろっていれば加点。

B 「人間の欲望で処理するしかない」を適切に表現していれば4点を加える。

※ 「(人間の)欲望」「処理」「～しかない」の三成分がそろっていれば加点。

「消費」「投資」については不問。あくまで「(人間の)欲望」「処理」「～しかない」の三成分を求める。

※ 「～しかない」の成分を欠く場合は、3点とする。(人間の欲望でしか処理できない、という書き方は「～しかない」と同意とみなしてよい。)

C 「欲望は有限」を適切に表現していれば4点を加える。なお「欲望は生存本能」であることへの言及のみであれば後述のDに関連しづらいため、不可とする。

※ 「欲望」「有限」の二成分がそろっていれば加点。

D 「欲望を開拓するしかない」という趣旨を適切に表現していれば4点を加える。

※ 「欲望」「開拓」「～するしかない」の成分がそろっていれば加点。

※ 「～するしかない」の成分を欠く場合は3点とする。

二 現代文 (50点)

問一 10点

(模範解答例)

A①○2点

A②2点

C2点

芸術作品は、一方で対象と全体的場所は同じことの「二側面である」とともに、  
B○4点

他方で対象と全体的な場所は確実に偏差があること。(58字)

【A・Bに関して部分採点。CはAとB両方があることを前提とする】

A 「対象」と「全体的場所」の二者が明示された上で、これらがふたつの側面であることを示して「対象と全体的場所は同じこと」の二側面であること」といった趣旨が適切に表現されていれば4点を加える。Aは①②の二つに分けて採点する。

※①「対象(芸術作品も可)・「全体的場所(場所も可)」という二つの成分が明示できていれば2点。

※②「同じこと」の二側面」という内容(「同じこと」・「二側面」という二成分がそろっていれば2点)

B Aのふたつに「偏差」があることを示して「対象と全体的な場所は確実に偏差があること」のように表現されていれば2点を加えるが、当然「両者」や「それぞれ」といった表現でも可とする。

※「偏差」という内容を的確に表現できていれば可。

※「違い」「差異」などでは2点。

C AとBを対比的にまとめてあること(2点)

「一方で、他方で」「〜とともに」「〜であるが、〜もある」などのAとBの関係を意識していることがわかる表現があればよい。

問二 5点

(解答)

**間接的な描写であるところの芸術作品**

※冒頭に「その」があっても減点しない

問三 10点

(模範解答例)

A〇5点

B5点

芸術作品そのものと場所との 超越論的な関係が成立するとき。

【A・Bに関して部分採点を行う】

A 「芸術作品」と「場所」の二つの成分があれば5点を与える。

※ここでの「場所」は、「超越的なものがあるべき場所」なので、「全体的場所」は不可。

B (Aが)「超越論的な関係をもつこと」について適切に表現されていれば可。

※「超越論的な」「関係をもつ」の二つの成分があれば5点。

※「(芸術作品が)超越的なものがあるべき空白の場所を占めた」という成分があるものは2点与える。

※「超越的なもの」への言及に留まるものは1点与える。

問四 10点

(模範解答例)

A①〇2点

A②2点

歴史とは「いま、ここにある」という「一回限りの存在で、

B〇3点

C〇3点

作品に真正性を付与し作品にアウラを与え、崇高な芸術作品とするもの。(59字)

【A・B・Cに関して部分採点を行う】

A 「歴史が「いま、ここにある」という一回限りの存在」が適切に表現されていれば4点を加える。ただし「いま、ここ」という本文中の表現を用いずとも、その趣旨が明確に示されていれば可とする。Aは二つに分けて採点する。

①「いま、ここ」という成分があれば2点。

②「一回限りの存在」という成分があれば2点。

B 「Aが作品に真正性を与える」ことと、そのことによって「作品にアウラを与えられる」といった関係性が適切に表現されていれば3点を加える。

※「作品に真正性を与える」・「そのことによって『作品にアウラを与えられる』の二つの成分がそろっていれば3点。片方だけなら1点。

C 「Bによって芸術作品が崇高になる」といった趣旨が適切に表現されていれば3点を加える。

※「芸術作品」「崇高になる」の二つの成分がそろっていれば3点。

(模範解答例)

B

メランコリーの感情により

A〇5点

アウラを可能にしていた、第二の審級の眼差しが指定する空隙である超越論的な場所である、

B〇5点

所有不可能なものが喪失されることにより、

C〇5点

作品としての価値が失われることが想定できるから。(98字)

【A・B・Cに関して部分採点を行う】

A 「超越論的な場所」が「アウラを可能」にしている趣旨が適切に表現されていれば5点を加える。

※「超越的な第三者の審級がアウラを可能にしている」なども可。

B メランコリーによつて「所有不可能なもの」が「喪失されること」という趣旨が適切に表現されていれば5点を加える。

※「所有不可能なもの」「喪失」の二つの成分があれば加点。

C 「作品としての価値が失われることが想定できる」ことの趣旨が適切に表現されていれば5点を加える。

※「価値を失う」「想定される」の二つの成分があれば加点する。「価値を失う」は「アウラが崩壊する」「崇高さが失われる」などでも可。



三 古文(25点)

問一 9点(各3点×3)

(イ)

(模範解答例)

ア見る人も実際以上に高く評価し、イ演者本人も自分は上手だと思ひ込むのである。

ア―①点。「見る人・観客・本人以外の人々」＋「高く評価する・褒める・感心する」。完答

「実際以上に」はなくても可。

イ―②点。「本人・当人・演者」＋「上手・名人だと思ひ、思ひ上がる、うぬぼれる」など＋断定

三個できて②点。一〜二個できて①点 0個①点 一過性の「うまくいった」は×

(ハ)

(模範解答例)

ア自分の芸の到達度の程度に見合った芸の魅力はイ一生ウなくなりはしない。

ア―①点。「芸の到達度に相応の」＋芸の魅力 完答

イ―①点。一生

ウ―①点。なくならない・失わない。「おとろえない」も許容。

(三)

(模範解答例)

アきつとイ世の中に認められ、ウ名声を得るに違いない

ア―①点。「必ず・きつと」。

イ―①点。「世間・人々・天下」に「認められる・評価される」。完答

ウ―①点。「名声・人望を得る」＋推量「だろう・にちがいない」。完答

問二 5点

(模範解答例)

ア「一時的な芸の魅力を実力以上の真の魅力と思ひ込むと、イ真実の芸の到達から遠のき、ウもともとあつた実力相応の芸の魅力も失うから。」

ア―①点。自分の実力の過大評価 や 自己満足 であることがわかれば可。

イ―②点。本当の芸の到達ができない。

ウ―②点。現在の実力相応の芸の魅力を失う。

問三 4点

(模範解答例)

「四十歳以降に芸が衰えるのは、三十四五歳頃に真実の芸の魅力を得るに至らなかったこと」の証拠だと「ういふ」。

ア―②点。「それ」の指示内容。↓「四十歳以降」に「実力が落ちる・芸が衰える」こと。

イ―②点。「三十四五歳」で「芸が到達していない」こと の証拠。

\*または、「三十四五歳で芸が到達していない」↓四十歳以降、芸が衰える・実力が落ちる」とまとめて可。

問四 7点

(模範解答例)

「一時的な芸の魅力に惑わされず、自分の芸の到達度をよく心得て、ますます基本の演技を確かにし、  
名声を得ている人に細かに質問して、稽古をいっそう増して励むべきである。」【⑦点】

ア―②点。自分の実力の程度を正しく心得る。

△満足しない・芸を極めた態度を取らない など否定的にまとめたものは、内容があっても

「あるべき心構え」にはならないので減点①点。

△ほめられても「一時の成功だと思ふ・偶然だと思ふ」なども、どうすべきかではないので減点①点

イ―①点。基本を確立する。

ウ―②点。名人に質問する

エ―②点。いっそう稽古をする      △「努力をする」など、具体的でないものは減点①点。

四 漢文(25点)

問一 各2点×3＝計6点

A Ⅱ たまたま

B Ⅱ なんちと／なんちとともに

E Ⅱ まだ

※現代仮名づかいは不可。

問二 5点

① ただに

② ちあるのみならず、

③ まだよくりをきはむ。

● 以下のように、三分割して採点します。

① ただに

2点

② ちあるのみならず

2点

③ まだよくりをきはむ／きはめり

1点

※現代仮名づかいは不可。

※③の「理」の読みは「ことわり」も可(「ことはり」は不可)。

※①↓②↓③の順序になっていない場合は全体として加点なし。

※句点「。」の有無は不問。

問三 5点

(模範解答例)

- ① 後ろを歩いている人  
② に踏まれてしまう  
③ ではないか。

● 以下のように、三分割して採点します。

- ① 後ろを歩いている人 1点  
② に踏まれてしまう 2点  
③ ではないか。 2点

※①は、「後ろをついてくる人」「後ろに続く人」「続いて歩いてくる者」など、「継ぎ来たる者」の訳として適切であれば可。「次に来る人」は意味が不明瞭で加点なし。

※②は「……に踏まれてしまう」「……に踏まれる」「……に踏まれることになる」など、受身で訳されていることが加点条件。また「踏まれた」「踏まれてしまった」「踏まれることになった」など、過去・完了の意味合いを含む場合は加点なし。なお「踐む」を「踐む」のままにした場合、訳していないととらえ、加点なし。

※③は「……ではないか」「……ではなかるうか」など、推量に近い意味で訳されていることが加点条件。「なんと……ではないか」「まことに……ではないか」など、余計な言葉がついている場合は、日本語として不自然になるので、加点なし。

※①↓②↓③の順序になっていない場合は全体として加点なし。

※句点「。」の有無は不問。

問四 9点

(模範解答例)

- ① 田舎者が数日肉食しただけで道理に通じたと称して愚かなことを口にしてはいるが、  
② 普段から肉食している上流階級の人間も似たようなものだと思っっているから。

● 以下のように、二分割して採点します。

- ① 田舎者が数日……口にしてはいるが、 4点  
② 普段から肉食……思っっているから。 5点

※①は「肉を食べたところで、身についた知恵はたかが知れている(と思っただから)」「肉を食べても、その知恵は大したことはない(と思っただから)」といった点に何らかの形で触れていれば加点。

\*「鄙人」(≡田舎者・下流階級)が肉食をして知恵をつけようと試みたが、彼らが肉食で得た知恵はたかが知れていた(というより少しも賢くなつてはいなかった)という点に触れなければならない。

※②は「普段から肉食している『公卿』(≡貴族・貴人・上流階級)も、肉食を試した鄙人たちと同じように愚かだと思っただから」「肉食している上流階級は賢いと思われているが、実際は、肉食を試した鄙人たちと同じく愚かだと思っっているから」といった点に何らかの形で触れていれば加点。

\*芥子の言う「肉食する者」には、肉食を試した鄙人たちのほか、普段から肉食している公卿も含まれており、芥子は「肉食している者は、鄙人も公卿もどちらも、その知恵はこんなものだ(たかが知れている)大したことではない」と言っている——と読みとれていなければならぬ。